

## 関東大震災

大正十二年、午前十一時五十八分、関東地方に大地震が起こった。夏休み明けのこの日は、朝から雨を伴った強い風が吹いていた。

其の風も十時頃には止み、残暑のきびしい日差しが東京の家並みを照りつけていた。多くの市民が昼食の食卓につこうとしていた、其の瞬間に、この大災害が起こったのである。

被害は、東京・神奈川・静岡・千葉・埼玉の一府四県に及んだ。

東京で観測された、最大の振幅は十四〜二十センチに及び、地面はひび割れた。

地震後発生した火災で被害は広がった。

関東全体で、死者、九万九千三百三十一人、行方不明、四万三千四百七十六人、家屋倒壊、十二万八千二百六十六戸。半壊、十二万六千二百三十三戸。焼失、四十四万七千二百二十八戸。山崩れ、がけ崩れなどが多発した。

震源地は相模湾の海底で、地震の規模はマグニチュード七・九。

この地震で房総方面と神奈川県南部は隆起、東京付近以西、神奈川北部は沈下し、関東の沿岸に津波が襲った。

この災害時に、朝鮮人虐殺事件、亀戸事件、大杉事件などの、テロリズムが多発した。

